

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
東京バイオテクノロジー専門学校		昭和63年2月26日		大谷 啓一		〒144-0032 東京都大田区北荏谷1-3-14 (電話) 03-3745-5000																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人 東京滋慶学園		平成25年4月1日		中村 道雄		〒143-0016 東京都大田区大森北1-18-2 (電話) 03-3763-2211																													
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																													
農業	農業専門課程	バイオテクノロジー科4年制			-	平成21年2月27日文部科学省告示第25号																													
学科の目的		当該課程の目的は、核酸、たんぱく質の研究現場、あるいは、医療とその研究のために動物細胞培養、実験動物取扱、分析と研究の成果が活用される現場での仕事に必要な専門知識と技術を持ち、主体的に仕事ができる実験技術者を養成する。																																	
認定年月日		平成27年2月17日																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技																												
4 年	昼間	3,738時間	1,315時間	618時間	3,480時間	0時間	0時間																												
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数																													
160人		193人		5人		8人																													
兼任教員数		総教員数		18人		26人																													
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価 ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・A(100～90点)・B(89～80点)・C(79～70点)・D(69～60点)・F(59点以下) ■成績評価の方法について 試験の結果、出席状況、学習態度、実習状況、レポートで評価する																															
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏 季:7月21日～8月31日 ■冬 季:12月21日～1月10日 ■春 季:3月21日～4月5日 ■学年末:3月31日			卒業・進級 条件 ■成績評価 D以上 ■出席日数・習得時間数 授業時間の70%以上で不合格がないもの																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 担任から家庭への定期的な電話連絡の他に、必要に応じて、個人面談、三者面談を実施する			課外活動 ■課外活動の種類 大田区のりの博物館(地域連携)																															
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 大学等研究室機関、遺伝子治療施設、医薬系企業、再生医療研究施設、実験動物取扱研究施設、細胞培養研究企業施設 ■就職指導内容 就職対策講座を行い、履歴書の書き方、面接練習、筆記試験対策を実施 ■卒業者数 : 42 人 ■就職希望者数 : 39 人 ■就職者数 : 39 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 93 % ■その他 ・進学者数: 3人 順天堂大学大学院 1名 静岡大学大学院 1名 お茶の水女子大学大学院 1名 (令和 4 年度卒業生に関する 令和2年5月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3 ■サークル活動: ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>毒物劇物取扱責任者</td> <td>①</td> <td>28名</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>中級バイオ技術者認定試験</td> <td>①</td> <td>35名</td> <td>27名</td> </tr> <tr> <td>上級バイオ技術者認定試験</td> <td>①</td> <td>48名</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>実験動物2級技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>22名</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>実験動物1級技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>知的財産管理技能検定3級</td> <td>①</td> <td>57名</td> <td>9名</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	毒物劇物取扱責任者	①	28名	16名	中級バイオ技術者認定試験	①	35名	27名	上級バイオ技術者認定試験	①	48名	17名	実験動物2級技術者認定試験	③	22名	14名	実験動物1級技術者認定試験	③	0名	0名	知的財産管理技能検定3級	①	57名	9名
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																
毒物劇物取扱責任者	①	28名	16名																																
中級バイオ技術者認定試験	①	35名	27名																																
上級バイオ技術者認定試験	①	48名	17名																																
実験動物2級技術者認定試験	③	22名	14名																																
実験動物1級技術者認定試験	③	0名	0名																																
知的財産管理技能検定3級	①	57名	9名																																
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名 ■中途率 1 % 令和4年4月1日時点において、在学者189名(2022年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者139名(2023年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 精神疾患、家族問題、学費問題、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 中退防止:電話連絡・個人面談・三者面談実施及びSSC:チューデントサポートセンター(学校カウンセラー)との連携強化 中退者支援:転校支援																																		
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・ 無 特待生試験の成績による減免(入学時のみ) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ・ 非給付対象																																		
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ・ 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																		
当該学科の ホームページ URL	URL: https://www.bio.ac.jp																																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・研究所との連携について、従来、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現にむけ、学校の教職員と業界で活躍をしている兼任教員(非常勤講師)が、講師授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催していました。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらい取り組みも行ってまいりました。教育課程編成委員会においては、業界関係者からの意見も、より詳細に教育内容に反映させることを目的とします。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置され、委員会の適切運営は学校長が担保することになっています。また、学校運営においては、教務組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営します。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
村山 洋	麻布大学 生命環境部	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①②
勝田 真一	一般社団法人 日本食品分析センター	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
大貫 敏彦	NPO法人環境サステナブルリサーチラボ	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①②
木崎 康造	公益財団法人 日本醸造協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①②
福富 竜太	株式会社 樋口商会	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
小川 昭久	学校法人 東京滋慶学園 理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日	
大谷 啓一	東京バイオテクノロジー専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	
居間 暁昌	東京バイオテクノロジー専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和6年3月31日	
小室 真保	東京バイオテクノロジー専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	
松本 靖子	東京バイオテクノロジー専門学校 学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	
永井 武	東京バイオテクノロジー専門学校 教務リーダー	令和4年4月1日～令和6年3月31日	
杉田 佑輔	東京バイオテクノロジー専門学校 キャリアセンター長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)年2回(5月、11月)

(開催日時)

第1回 2023年5月17日 15:30～17:30

第2回 2023年11月15日 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

以前、大貫委員から提案の企業と共同した教育システムとしては、平成31年度開講科目より主に細胞培養系で教員派遣を得て、実施する科目を設定した。また、同委員からの資格化提案については細胞培養の学内資格を実施している。
また、バイオ実験技術者(バイオテクニシャン)、バイオ技術開発職(バイオエンジニアリング)の専門技術職の拡大をするにあたり、工学分野と融合できるメリット・デメリットなどの意見を伺いながら、新しいカリキュラム作成を実施している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、卒業後の業界に直結した職業人教育を行うため、業界と連携し、ともにスペシャリストを育成することを目的としています。このため、特に実習科目に置いては、現場で活躍するプロが非常勤講師として授業を行うなど、卒業後即戦力をして活躍できる人材を養成するための授業内容を、業界関係者とともに企画、立案、実施、達成度評価を行います。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業・研究所と講師業務委託契約を交わした上で、企業・研究所から派遣されたプロの人材が非常勤講師として、授業を実施しています。この際、講義授業は、講師がシラバスを作成・学校との協議を経て確定した講義内容を展開しています。また実習授業では、講師による指導に基づき学生が実践、業界で必要なレベルまで技術を磨いています。また、授業実施後は、毎回報告書(クラスノート)の作成を求め、その内容をもとに学科専任教員と情報共有を行い、クラス運営における適切な問題解決に役立てるとともに、今後の授業内容の改善にも役立てることを目的としています。
さらに、企業・研究所において、学外実習(インターンシップ)を行い、企業・研究所の実習担当指導のもと、現場で必要な技術の仕上げと、コミュニケーションの向上を行っております。また、このインターンシップは、卒業論文にも連動しています。
こうした企業との緊密な連携に基づいた本校における授業の集大成として、卒業研究発表会を実施しています。それぞれの学生が企業・研究所から与えられたテーマに基づき卒業研究を行い、その発表をポスター発表の形で外部に向けて行っております。例年、企業・研究所等から来場者を迎え、学生の成果発表に対する評価を行って頂いております。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
卒業研究Ⅰ	卒業研究テーマについて、目的を明らかにし、実験計画をたて、実験、解析を行う	・東京大学大学院 農学生命科学研究所 ・応用生命化学専攻 植物栄養・肥料学研究室 ・JTクリエイティブサービス 小山事業所 ・株式会社アグリノーム研究所 ・株式会社ブランテックス ・株式会社キーストーンテクノロジー ・国立研究開発法人 理化学研究所 ・環境資源科学研究所センター 植物免疫研究グループ ・順天堂大学 難病の診断と治療研究センター 赤澤研究室 ・国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部 ・株式会社 Hyperion Drug Discovery ・慶応義塾大学医学部 先端医科学研究所 脳科学研究部門 ・国立がん研究センター研究所 がんRNA研究分野 ・順天堂大学 健康総合科学先端研究機構 ・免疫治療研究センター ・東京大学大学院 医学系研究科網膜発生・疾患病態学 ・順天堂大学医学部 熱帯医学・寄生虫学講座 ・国立がん研究センター研究所 基礎腫瘍学ユニット ・国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター4室 ・順天堂大学 循環器内科学講座 ・埼玉大学大学院 理学研究科 環境制御システムコース ・遺伝子環境工学研究室 ・埼玉医科大学 総合医療センター 内分泌糖尿病内科 ・東京大学アイソトープ総合センター 秋光研究室 ・慶応義塾大学医学部 耳鼻咽喉科学教室 ・東海大学医学部 基礎医学系分子生命科学 亀谷研究室 ・順天堂大学大学院医学研究科 ・老人性疾患病態・治療センター 神経疾患病態構造学 ・順天堂大学 免疫治療研究センター ・国立感染症研究所 細菌第一部 ・国立国際医療研究センター研究所 ・感染症制御研究部ヒト型動物開発研究室 ・東京都医学総合研究所 基礎医科学研究分野 ・ゲノム動態プロジェクト
卒業研究Ⅱ	卒業研究テーマについて、目的を明らかにし、実験計画をたて、実験、解析を行う	・東京大学大学院 農学生命科学研究所 ・応用生命化学専攻 植物栄養・肥料学研究室 ・JTクリエイティブサービス 小山事業所 ・株式会社アグリノーム研究所 ・株式会社ブランテックス ・株式会社キーストーンテクノロジー ・国立研究開発法人 理化学研究所 ・環境資源科学研究所センター 植物免疫研究グループ ・順天堂大学 難病の診断と治療研究センター 赤澤研究室 ・国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部 ・株式会社 Hyperion Drug Discovery ・慶応義塾大学医学部 先端医科学研究所 脳科学研究部門 ・国立がん研究センター研究所 がんRNA研究分野 ・順天堂大学 健康総合科学先端研究機構 ・免疫治療研究センター ・東京大学大学院 医学系研究科網膜発生・疾患病態学 ・順天堂大学医学部 熱帯医学・寄生虫学講座 ・国立がん研究センター研究所 基礎腫瘍学ユニット ・国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター4室 ・順天堂大学 循環器内科学講座 ・埼玉大学大学院 理学研究科 環境制御システムコース ・遺伝子環境工学研究室 ・埼玉医科大学 総合医療センター 内分泌糖尿病内科 ・東京大学アイソトープ総合センター 秋光研究室 ・慶応義塾大学医学部 耳鼻咽喉科学教室 ・東海大学医学部 基礎医学系分子生命科学 亀谷研究室 ・順天堂大学大学院医学研究科 ・老人性疾患病態・治療センター 神経疾患病態構造学 ・順天堂大学 免疫治療研究センター ・国立感染症研究所 細菌第一部 ・国立国際医療研究センター研究所 ・感染症制御研究部ヒト型動物開発研究室 ・東京都医学総合研究所 基礎医科学研究分野 ・ゲノム動態プロジェクト
遺伝子解析実習	遺伝子解析の原理を学び、その基本技術を習得する	・東京大学大学院 農学生命科学研究所 ・応用生命化学専攻 植物栄養・肥料学研究室 ・国立研究開発法人 理化学研究所 ・環境資源科学研究所センター 植物免疫研究グループ ・順天堂大学 難病の診断と治療研究センター 赤澤研究室 ・国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部 ・国立がん研究センター研究所 がんRNA研究分野 ・順天堂大学医学部 熱帯医学・寄生虫学講座 ・埼玉大学大学院 理工学研究科 ・環境制御システムコース 遺伝子環境工学研究室 ・埼玉医科大学 総合医療センター 内分泌糖尿病内科 ・東京大学アイソトープ総合センター 秋光研究室 ・国立感染症研究所 細菌第一部 ・国立国際医療研究センター研究所 ・感染症制御研究部ヒト型動物開発研究室 ・登記欲と医学総合研究所 基礎医科学研究分野 ・ゲノム動態プロジェクト

遺伝子解析法	生命現象をつかさどる遺伝子やその産物であるタンパク質の構造および機能を解析するための様々な解析法について学ぶ	・東京大学大学院 農学生命科学研究所 ・応用生命化学専攻 植物栄養・肥料科学研究室 ・国立研究開発法人 理化学研究所 ・環境資源科学研究センター 植物免疫研究グループ ・順天堂大学 難病の診断と治療研究センター 赤澤研究室 ・国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部 ・国立がん研究センター研究所 がんRNA研究分野 ・順天堂大学医学部 熱帯医学・寄生虫病講座 ・埼玉大学大学院 理工学研究科 ・環境制御システムコース 遺伝子環境工学研究室 ・埼玉医科大学 総合医療センター 内分泌糖尿病内科 ・東京大学アイソトープ総合センター 秋光研究室 ・国立感染症研究所 細菌第一部 ・国立国際医療研究センター研究所 ・感染症制御研究部ヒト型動物開発研究室 ・登記欲と医学総合研究所 基礎医科学研究分野 ・ゲノム動態プロジェクト
タンパク質解析 実習	タンパク質解析のための実験技法を習得する	・国立研究開発法人 理化学研究所 ・環境資源科学研究センター 植物免疫研究グループ ・順天堂大学 健康総合科学先端研究機構 ・免疫治療研究センター ・東京大学大学院 医学系研究科網膜発生・疾病病理学 ・国立がん研究センター研究所 基礎腫瘍学ユニット ・国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター4室 ・東京大学アイソトープ総合センター 秋光研究室 ・東海大学医学部 基礎医学系分子生命科学 亀谷研究室

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。中途退学防止に向けて「学生一人ひとり」に対する対応策の企画立案、実施、評価というPDCAサイクルを展開することを年間教育活動の中心にすえ、ファカルティ・デベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の要素が年間を通じた授業内容に反映されるように研修を行いました。

①キャリア教育の視点 ②カリキュラム改善、教育技法の改善

さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議に置いて、この方針を共有し、シラバス内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を行っている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

【研修①】
実施日:2022年7月7・8日 対象者:専任教員
主催:日本組織培養学会 内容:日本組織培養学会第94回大会参加

【研修②】
実施日:2022年7月15日 対象者:専任教員
主催:バイオサイエンス教育分科会 内容:学外実習(インターンシップ教育)のプログラムについて

【研修③】
実施日:2020年10月21日 対象者:専任教員
主催:バイオサイエンス教育分科会 内容:細胞培養技術試験結果報告

【研修④】
実施日:2023年1月13日 対象者:専任教員
主催:バイオサイエンス教育分科会 内容:卒業研究成果とその教育プログラムについて

②指導力の修得・向上のための研修等

①【FDミクロレベル(フォローアップ)研修】 連携企業等:滋慶教育科学研究所
実施日:2022年6月8・9・15・16日(オンライン) 対象:授業担当者
・クラスの成長を促すコーチングの基礎を学び、実践することができる。公開授業の実施にむけて準備をする

②【教職員カウンセリング研修(2次)】 連携企業等:滋慶教育科学研究所
実施日:2022年9月26～30日・10月20～21日(オンライン) 対象:教職員
・学生や保護者の対応ができるようにスキル向上を目指す

③【キャリア教育アドバンス研修】 連携企業等:滋慶教育科学研究所
実施日:2023年1月12日 対象:教務部長・学科長・マネージャー
・合理的配慮の提供の義務化に伴い、合理的配慮を理解する。現場における実践事例を踏まえ、対策についてを考える

④【FDミクロ(レベルアップ)研修】 連携企業等:滋慶教育科学研究所
実施日:2023年1月18・25日(オンライン) 対象:学科リーダー
・授業改善に向けたポイントに気づき、実行する。アクティブラーニングについて理解し、実践できる

⑤【キャリア教育インストラクター研修】 連携企業等:滋慶教育科学研究所
実施日:2023年1月20日(オンライン) 対象:学科長・リーダー
・成功の原則を教職員に教え、伝えられる人になる

①専攻分野における実務に関する研修等

【研修①】

実施予定日: 2023年8月1日・9月1日 対象者: 専任教員

主催: 日本組織培養学会 内容: 日本組織培養学会第95回大会参加

【研修②】

実施予定日: 2023年9月25日 対象者: 専任教員

主催: バイオサイエンス教育分科会 内容: バイオ医薬品開発のための技術

【研修③】

実施予定日: 2023年11月24日 対象者: 専任教員

主催: バイオサイエンス分科会 内容: 再生医療と細胞培養技術

②指導力の修得・向上のための研修等

【FDマクロレベル研修】

連携企業等: 滋慶教育科学研究所

実施日: 2023年7月14日 対象: 学科責任者

・教育の質保証(質向上)戦略、教育システムのイノベーションをリーダーとしてチームと協働することができるようにする

【FDミドルレベル研修】

連携企業等: 滋慶教育科学研究所

実施日: 2023年7月20日 対象: 学科責任者

・カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見をできるようにする

【教職員カウンセリング研修(2次)】

連携企業等: 滋慶教育科学研究所

実施日: 2022年9月14～15日・26～29日 対象: 教職員

・学生や保護者の対応ができるようにスキル向上を目指す

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校における自己点検自己評価を外部の目から見てチェックを頂き、考えの足りない部分をご指摘いただくのが大きな趣旨である。それに加えて、年度当初に立てた重点項目が年度の中間および終了時点で達成されているかどうかを学部の視点でご評価を頂き、次年度以降の学校運営に役立てていきたい。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

今回の学校関係者評価結果並びに委員会での意見については、理事会や学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、翌年度における重点課題への反映及び、具体的な取り組みに落として込んでいく。
今年度においては、卒業して業界で働いときに、技術、知識の学び以外にも、コミュニケーション力、人間力も在学中に備えていけるように、フロー作成し現在、検証をしている部分でもあるので、ブラッシュアップを図っていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
有賀 春夫	ユニオンケミカル 株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日	卒業生
関口 和也	本校在校生保護者	令和4年4月1日～令和6年3月31日	保護者
森 章	拓殖大学紅陵高等学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日	高校関係者
吉岡 正弘	島根県立松江農林高等学校 学校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	高校関係者
加世田 光義	おおた農水産業研究会	令和4年4月1日～令和6年3月31日	地域関係者
池田 章	ノベールファーマ 株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.bio.ac.jp>

公表時期: 令和5年6月20日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の情報提供は、基本的にはホームページを通じて行っている。これは企業をはじめとする業界諸氏についても同様である。提供する情報については学校の紹介に始まり平素の学校教育について、その取り組みを配信している。これにより企業等との連携が生じ、学校教育や就職の支援などの充実につなげていくことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員構成・理事名簿
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <https://www.bio.ac.jp>

授業科目等の概要

(農業専門課程 バイオテクノロジー科4年制) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期		授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			導入研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	目的を持って学校生活をスタートできるよう、職業人としての心構えを習得する。	1	前・後	53	3		○		○	○	○		
○			コミュニケーションとプレゼンテーションⅠ・Ⅱ	職業人としてのコミュニケーションとプレゼンテーションの基本を習得する。企業見学で適切な行動を学ぶ。	1	前・後	60	4		○		○	○	○		
○			生物	細胞のつくりから生物における物質代謝、恒常性の維持を学ぶ。	1	前	30	2	○			○			○	
○			化学	原子、分子、化合物の化学的概念と溶液の性質を学ぶ。	1	前	30	2	○			○			○	
○			バイオ英語Ⅰ・Ⅱ	バイオテクノロジー分野の関わる英語の基本単語を学ぶ。	1	前・後	60	4	○			○			○	
○			PC 文書作成とデータ処理	パソコンソフトであるWordの操作法を習得する。	1	後	30	2		○		○			○	
○			生体高分子化学Ⅰ	生体を構成する高分子化合物と、それを構成する原子、分子について学ぶ。	1	後	30	2	○			○			○	
○			生化学Ⅰ・Ⅱ	細胞および細胞内器官の構造と働きを学ぶ。また、生体エネルギーも学ぶ。	1	前・後	60	4	○			○			○	
○			微生物学Ⅰ・Ⅱ	微生物の分類と特徴を学ぶ。各論(菌類)、微生物の代謝を学ぶ。	1	前・後	60	4	○			○			○	
○			実験の基礎と化学計算	実験を安全に行うための基礎知識(試薬、緊急時、基本的器具機器)、実験で必要とされる数字の扱い、濃度計算の基本を学ぶ。	1	前	30	2	○			○			○	
		○	基礎講座Ⅰ・Ⅱ(計算基礎)	化学計算に必要な計算の基礎、考え方、組み立て(式の成り立ち)を学ぶ。	1	前	30	2		○		○			○	
○			分子生物学Ⅰ	生物の概念、細胞、DNA、RNA、タンパク質を学ぶ。	1	後	30	2	○			○			○	
○			遺伝子工学Ⅰ	遺伝子操作を行なう際に必要な方法の原理を学ぶ。	1	後	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(農業専門課程 バイオテクノロジー科4年制) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期		授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			毒物・劇物Ⅰ	毒物劇物取扱者試験合格を目指す。	1	後	15	1	○			○			○	
○			生物実習	植物、動物の細胞および形態的特徴を観察を通して学ぶ。	1	前	60	2			○	○			○	
○			基礎化学実習	実験器具・機器の取扱と試薬調製法を習得する。	1	前	60	2			○	○			○	
○			微生物実習	微生物の培養、観察を通して微生物取扱の基本操作、観察技術を習得する。	1	前	60	2			○	○			○	
○			基礎分析化学実習	分析化学の基本実験を通して実験操作技術の基本を習得する。	1	前	60	2			○	○			○	
○			生化学実習Ⅰ・Ⅱ	糖質、タンパク質、酵素反応を実験を通して学ぶ。クロマトグラフィーの原理、生体成分の抽出・定量法や性質、機能の評価法を学ぶ。	1	後	120	4			○	○			○	
○			動物細胞実習	動物細胞の培養法を習得する。浮遊細胞や付着性細胞の取扱いを習得する。	1	後	60	2			○	○			○	
○			基礎遺伝子実習	核酸の抽出、電位泳動、制限酵素処理などの基本操作、原理を学ぶ。	1	後	60	2			○	○			○	
○			プロ養成講座Ⅰ・Ⅱ	求められている職業人像やインターンシップについて理解するとともに必要な資質のを学ぶ。	2	前・後	60	4		○	○	○		○		
○			PC データ処理とプレゼンテーション	パワーポイントの基本操作を習得する。図表の作成の基本操作を学ぶ。	2	前	30	2		○		○			○	
○			PC データ処理とデータセキュリティ	データ処理に役立つ関数について学び、実験データの処理などに活用する。	2	後	30	2		○		○			○	
○			毒物・劇物Ⅱ	毒物劇物取扱者試験問題の関連法規や化学物質の性質を問題演習を通して整理し、理解する。	2	前	15	1	○			○			○	
○			中級バイオ対策Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	中級バイオ技術者認定試験の対策を行う。	2	後	45	3	○			○			○	

授業科目等の概要

(農業専門課程 バイオテクノロジー科 4 年制) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期		授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			海外研修	海外の研究現場や分子生物学的手法の学習環境での体験を通して、国際的な感覚を持つ。	2	後	40	1		○			○	○		
○			海外研修事前研修	海外研修参加につき、事前に知識・情報を身につける。	2	後	15	1		○			○	○		
○			分子生物学Ⅱ	真核生物の染色体構造および細胞の維持と調節機構を学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○	
○			遺伝子工学Ⅱ	宿主・ベクター、遺伝子ライブラリー、遺伝子解析法を学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○	
○			生物統計	実験データの取扱いとデータの統計処理を学ぶ。	2	後	15	1	○			○			○	
○			科学英語Ⅰ・Ⅱ	遺伝子工学、細胞培養、タンパク質工学などの文献を読む。	2	前・後	60	4	○			○			○	
○			薬学概論	バイオテクノロジー分野に関連する薬学のトピックスを学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○	
○			生体高分子化学Ⅱ	生体高分子の構造と機能の原理を学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○	
○			機器分析実習	HPLC と GC など分析機器の原理、操作法および試料中成分の定量法を習得する。	2	前	60	2			○	○			○	
	○		TOEIC講座Ⅰ	TOEIC受験のための講座。スコアアップを目指す。	2	後	15	1	○			○			○	
	○		動物細胞工学	動物細胞への遺伝子導入方法や導入遺伝子の解析法、また応用研究として、体細胞クローン、iPS細胞を使った再生医療などを学ぶ。	2	後	30	2	○			○			○	
	○		実験動物学	実験動物とそれらの飼育管理、取扱いの基本を学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○	○
	○		実験動物飼育管理法	動物福祉に即した実験動物の飼育法、実験データの取扱いなどを学ぶ	2	後	30	2	○			○			○	○

授業科目等の概要

(農業専門課程 バイオテクノロジー科 4 年制) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期		授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		細胞培養概論	動物細胞の持つ特徴に合わせた培養法を学ぶ。iPS細胞、ES細胞などの株の確立法など最新の細胞培養技術も学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○	
	○		植物分子細胞生物学	植物における遺伝子発現、タンパク質の生産などの分子生物学を学ぶ。	2	前	30	2	○			○			○	
	○		植物細胞工学	植物細胞への遺伝子導入方法や導入遺伝子の解析法などを学ぶ。	2	後	30	2	○			○			○	
	○		応用細胞培養実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	細胞の取扱い、培養、保存などの動物細胞培養技術を習得する。	2	前・後	240	8			○	○		○	○	
	○		遺伝子工学実習Ⅰ・Ⅱ	遺伝子のクローニング技術、ブルーホワイトアッセイ、タンパク質発現の実践と理論などを学ぶ。	2	前	120	4			○	○			○	
	○		動物細胞工学実習Ⅰ・Ⅱ	動物培養細胞に外来遺伝子を導入し、細胞の機能および発現タンパク質の解析の原理と手法をする。	2	後	120	4			○	○			○	
	○		実験動物取扱実習Ⅰ・Ⅱ	実験動物2級技術者として必要な技術を習得する。特に日常の飼育管理、基本的な動物実験手技を習得する。	2	後	120	4			○	○			○	○
	○		応用実験動物実習	実験動物を使った実験におけるモニタリング、卵操作、病理検査法を習得する。	2	後	60	2			○	○			○	○
	○		タンパク質精製実習	試料からのタンパク質精製を行い、タンパク質の単離法とその取扱い法を習得する。	2	後	120	4			○	○			○	
	○		植物基礎実習	植物の形態観察、組織の観察で、植物の体制と各器官の働きを学ぶ。	2	後	60	2			○	○			○	
	○		植物組織培養実習	無菌播種、組織培養、カルス誘導と分化など植物組織の培養と取扱い技術を習得する。	2	前	120	4			○	○			○	
	○		植物細胞工学実習	植物細胞のプロトプラスト化、細胞融合、植物細胞への遺伝子導入などの手法を習得する。	2	後	120	4			○	○			○	
○			プロ養成講座Ⅲ・Ⅳ	インターンシップをに出る準備をし、現場に出るための資質を学ぶ。	3	前・後	60	4		○		○		○		

授業科目等の概要

(農業専門課程 バイオテクノロジー科4年制) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期		授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策講座Ⅰ・Ⅱ	就職対策としての自己分析、文書作成、一般常識テスト対策を実施する。	3	前・後	60	4		○		○		○		
○			科学英語Ⅲ・Ⅳ	細胞融合、遺伝子導入などの手法を習得する。	3	前・後	60	4	○			○			○	
○			生命倫理と研究倫理	生命を扱うバイオテクノロジー技術に関わる倫理問題を考え、また、研究機関や研究所での行動について学ぶ。	3	前	15	1	○			○		○		
○			知的財産管理技能検定3級	国家資格 知的財産管理技能検定3級の項目を学ぶ。	3	前	30	2	○			○			○	
○			上級バイオ対策Ⅰ・Ⅱ	バイオテクノロジー分野の高度な知識をまとめる	2	後	30	2	○			○			○	
○			薬機法	再生医療等製品に関する規則など改正後の薬事法を学ぶ。特にバイオ医薬品、再生医療に関する法律を学ぶ。	3	後	30	2	○			○			○	
○			ジャーナルクラブ	テーマを決めて研究論文あるいは専門書(原著)を読み、プレゼン、ディスカッションを通して内容の理解を深める。	3	後	30	2		○		○			○	
○			応用遺伝子工学	遺伝子工学的手法を用いた実際の研究手法を学ぶ。	3	前	30	2	○			○			○	
○			実践総合実習Ⅰ・Ⅱ	卒業研究の事前学習を行う。研究テーマを決め、関連文献、情報を収集し、研究計画を立てる。	3	後	240	8			○	○			○	
	○		遺伝子・タンパク質解析法	生命現象をつかさどる遺伝子やその産物であるタンパク質の構造および機能を解析するための様々な解析法について学ぶ。	3	後	30	2	○			○			○	
	○		分子微生物学	微生物の多様な機能についてその遺伝的・生理的な分子的構造機能を学ぶ。	3	前	30	2	○			○			○	
	○		遺伝子解析法	生命現象をつかさどる遺伝子やその産物であるタンパク質の構造および機能を解析するための様々な解析法について学ぶ。	3	後	30	2	○			○			○	○
	○		TOEIC講座Ⅱ	TOEIC受験のための講座。スコアアップを目指す。	3	後	15	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(農業専門課程 バイオテクノロジー科4年制) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期		授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		TOFLE	TOEFL受験のための講座。スコアアップを目指す。	3	後	15	1	○			○			○	
	○		データベース検索演習	DNA塩基配列・タンパク質アミノ酸配列データに関するデータベースやツールの使い方を中心に学ぶ。	3	前	30	2		○		○			○	
	○		免疫学	細胞および分子レベルの免疫機構を学ぶ。	3	前	30	2	○			○			○	
	○		応用実験動物学	実験動物技術者として必要な応用知識を学ぶ。	3	前	30	2	○			○			○	
	○		動物生理学	生体の正常な機能を機能系ごとに概説する。	3	前	30	2	○			○			○	
	○		組織学	細胞からの組織化、また、動物の各組織について学ぶ。	3	前	30	2	○			○			○	
	○		植物生理学	植物の生理的な性質を学ぶ。	3	前	30	2	○			○			○	
	○		応用遺伝子工学実習	RNA抽出法やRT-PCRなど、RNAの取扱、遺伝子の検出、発現の検出法を習得する。	3	前	120	4			○	○			○	
	○		遺伝子解析実習	遺伝子解析の原理を学び、その基本技術を習得する。	3	前	60	2			○	○			○	
	○		タンパク質解析実習	精製タンパク質を用いた解析のための抗体作成法を習得する。	3	前	60	2			○	○			○	
	○		微生物解析実習	微生物解析のための実験技法を習得する。	3	前	60	2			○	○			○	
	○		抗体作成実習	精製タンパク質を用いた解析のための抗体作成法を習得する。	3	前	120	4			○	○			○	
	○		応用細胞工学実習	動物細胞への外来遺伝子導入、分化誘導法を学ぶ。	3	前	120	4			○	○			○	

授業科目等の概要

(農業専門課程 バイオテクノロジー科4年制) 2023年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期		授業単位数	授業時間数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		動物生理学実習	生体機能(血液、肝臓など)の調節・制御を実験動物を用いて実験を行う。	3	前	120	4			○	○			○	
	○		植物生理学実習	植物の成長に必要な要素(光、ホルモン、栄養素など)の実験手法を学ぶ。植物の環境応答機構を測定する手法を学ぶ。	3	前	120	4			○	○			○	
	○		植物病理学実習	植物ウイルスの検出(ELISA法など)の原理、手法を主にウイルス感染葉を用いて習得する。	3	前	120	4			○	○			○	
○			プロ養成講座Ⅴ・Ⅵ	就職、進学に向けて実践的な知識・マナーを身に付ける。インターンシップの情報共有をする。職業人・社会人としてキャリアを考えるとともに基礎的な知識・マナーを確認する。業界で仕事をするため、大学院進学ための準備を進める。	4	前・後	60	4		○		○		○		
○			卒研プレゼンテーション	卒業研究成果の報告、および卒業論文作成ための方法論を学ぶ。	4	後	30	2		○		○			○	
○			卒研英語Ⅰ・Ⅱ	卒業研究テーマに関する文献を読み、ディスカッションを通して理解を深める。	4	前・後	60	4	○			○			○	
○			卒業研究Ⅰ・Ⅱ	仮説⇒検証(実験とデータの解析)⇒仮説⇒検証(実験とデータ解析)を繰り返し、研究テーマに対する成果をまとめる。研究テーマについて、目的を明らかにし、実験計画をたて、実験、解析を行い、さらに成果をまとめる。	4	前・後	720	24			○	○	○		○	○
合計						5,448単位時間(243 単位)										
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
学期ごとに必須単数を取得し、卒業時まで規定単位時間(3738時間175単位)を履修し、学校長が適当と認めたものは卒業となる。									1 学年の学期区分				2 期			
									1 学期の授業期間				1 5 週			

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。